

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク	
施 設 名	第一生命ホール	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	11,141	(千円)
	公 演 事 業	9,134 (千円)
	人 材 養 成 事 業	305 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	1,702 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ロビーでよちよちコンサート	① R2. 5. 22※ ② R2. 12. 16、R3. 3. 10	① 動画配信(無料) ② 0歳児と妊婦さんのためのコンサート 出演:松谷萌江/田中愛/桃原健一他	目標値	720
		第一生命ホールロビー		実績値	112
2	クリスマス・オーケストラ・コンサート	R2. 12. 19	親子(お子様4歳以上)で指揮者無しのオーケストラでクリスマスの曲から交響曲まで楽しむ 出演:ARCUS(アルクス)	目標値	1,000
		第一生命ホール		実績値	782
3	子育て支援コンサート	R3. 3. 13	親子(お子様4歳以上)で音楽と絵本「銀河鉄道の夜」を楽しむ 出演:スーパー・チェロ・アンサンブル・トウキョウ、原きよ	目標値	1,000
		第一生命ホール		実績値	603
4	645 コンサート	R3. 2. 10	ヴァイオリン・リサイタル 出演:木嶋真優(ヴァイオリン)、坂野伊都子(ピアノ) ※有料ライブ配信も実施	目標値	420
		第一生命ホール		実績値	281
5	トリトン晴れた海のオーケストラ	R2. 6. 20※	第一生命ホールより無料ライブ配信 出演:トリトン晴れた海のオーケストラ(コンサートマスター矢部達哉)	目標値	1,340
		第一生命ホール		実績値	0
6	室内楽の魅力	① R2. 10. 24 ② R2. 12. 6(中止)※ ③ R2. 12. 12	室内楽ホールで名手の音楽を楽しむ 出演:①竹澤恭子/江口玲、②新型コロナの影響により中止、③小山実稚恵/川本嘉子	目標値	1,410
		第一生命ホール		実績値	485
7	室内楽ホール de オペラ 佐藤美枝子「蝶々夫人」	R3. 3. 20	ホールのサイズ・音響を活かしたオリジナル台本によるオペラ 出演:佐藤美枝子/井ノ上吏/与田朝子/久保田真澄/服部容子	目標値	公演 520 講座 30
		第一生命ホール		実績値	公演 255 講座 19

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	アウトリーチセミナー	R2. 6. 30~R3. 3. 22※	小学校他アウトリーチ 出演：(講師)松原勝也、(受講生) 保手 浜朋子/重松 彩乃/広瀬直人 ・オープンハウスは無観客ライブ配信 を実施	目標値	アウトリーチ 300 オープン ハウス 80 ロビーコ ンサート 100
		中央区小学校等		実績値	アウトリーチ 106 オープン ハウス 251 (動 画配信の 累計視聴 回数) ロビーコ ンサート 40
2	サポーター研修	R2. 9~R3. 3※	サポーター登録会(R2. 4)、サポーター 研修(R2. 6)は新型コロナウイルス感染 症の影響により中止。 サポーター交流会 (zoom) の実施	目標値	15
		zoom ミーティング等		実績値	0

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	オープンハウス 2020	R2. 7. 4※	<p>・おうちにおいても楽しめる特別バージョンとして「今年はおうちで！オープンハウス 2020」を実施。(無観客動画配信)</p> <p>出演：東京混声合唱団メンバー、アウトリーチセミナー（講師）松原勝也／（受講生）保手浜朋子、重松 彩乃、広瀬直人</p> <p>・動画配信「コンサートのひみつ！」張り出し舞台の設置方法や、舞台スタッフの仕事について説明</p>	目標値	800
		第一生命ホール		実績値	<p>・東混とうたおう！最大同時視聴数 252 人/累計視聴数 1034 回</p> <p>・弦楽四重奏をきいてみよう！最大同時視聴数 78 人/累計視聴数 251 回</p> <p>・コンサートのひみつ！累計視聴数 173 回</p>
2	アウトリーチ	R2. 7. 31～R3. 3. 27※	<p>小学校/幼稚園保育園/介護施設アウトリーチ</p> <p>出演：浜まゆみ/TANBRASS/日本音楽集団/田村緑/金子三勇士他</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により未実施あり（小学校、高校、医療機関等）</p>	目標値	小学生 1400、幼稚園保育園児 500、高校生 50、介護施設入所者 300、医療機関 30
		中央区、江東区小学校 他		実績値	小学生 1115、幼稚園保育園児 704、高校生 0、介護施設入所者 120、医療機関 0

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>当団体のビジョンは「音楽でつながり、音楽とともに生きる社会の実現」、ミッションは「音楽によるコミュニティの活性化。音楽の楽しさを分かち合い、心を豊かにする」である。地域特性としては、東京臨海都市の人口急増地域であり、特に年少人口を有するファミリー層の増加が顕著、地域ネットワークが希薄であることから、まちづくりが急務の課題となっている。</p> <p>このミッションと地域特性に基づき、次のように事業を組み立て実施した。</p> <p>「公演事業」では、第一生命保険株式会社の「ライフサイクル」の考え方に基づき、0歳からホールに入場できるよう年齢別にステップを踏んでシリーズを組み立て、子どもからオフィスワーカー、主婦・シニア層まで、幅広い層を対象とした多様な公演を提供した。関連企画として、中央区と連携した講座を行い、地域住民に理解を深めて鑑賞してもらう工夫ができた。</p> <p>「人材養成事業」では、「アウトリーチセミナー」による若手演奏家育成と、地域文化リーダーであるサポーター（ボランティア）育成のための事業を実施した。</p> <p>「普及啓発事業」では、ホール近隣の小学校、幼稚園・保育園、福祉施設等でアウトリーチを実施するとともに、地域で増加する新規住民にホールを身近に感じてもらうオープンハウス2020を実施した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの公演・アウトリーチの延期・中止を余儀なくされたが、公演では、無観客ライブ配信（無料）、有料ライブ配信を実施したり、アウトリーチ動画を撮影したDVDを作成して視聴してもらったり、オープンハウスは無観客動画配信で「今年はおうちで！オープンハウス2020」として実施する等、コロナ禍においても音楽をお届けする新たな取り組みを行うことができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>●文化的意義：公演事業（主催公演）は、すべて当団体のオリジナル企画、制作である。ホール専属オーケストラとして立ち上げ、「音楽の友」の「コンサート・ベストテン」などにも定期的選ばれ、BBC ラジオ3でも放送されるなど評価が高まる「トリトン晴れた海のオーケストラ」を始め、ホールの特性を活かした室内楽シリーズ、親子で楽しめる「音楽と絵本コンサート」等、対象者に応じた質の高い公演を提供。人材養成事業では地域の文化発展に貢献する若手演奏家や地域文化リーダー（ボランティア）の育成。普及啓発事業では、公演事業にも出演する演奏家と、人材養成事業で育成した演奏家が中心となってホールに来られない方へ質の高い音楽を提供。</p> <p>●社会的意義：公演事業では、あらゆる対象者への公演実施により、人が芸術文化を享受できる社会基盤構築の一翼を担っている。人材養成事業では、若手演奏家の発掘・育成、地域住民のサポーター（ボランティア）やアートマネジメントに関心ある学生インターンの文化芸術活動への参加機会提供。普及啓発事業では、ホールに来られない人のもとへ出向くことで、音楽の力で教育・福祉・地域振興等社会課題の解決に役立っている。</p> <p>●経済的意義：ホールで年齢別の「子どもといっしょにクラシック」シリーズを展開、質の高い音楽を青少年が低廉な価格で鑑賞できる公演事業を行うと同時に、普及啓発事業として地域で（特に中央区では区立小学校全16校で）小学4年生を対象としたアウトリーチを継続、子どもが楽器を習い始めたなどの報告も受けている。ほかにも保育園、幼稚園、認定こども園、発達支援センター、特別養護老人ホーム、医療機関と連携したアウトリーチを継続実施することで地域住民がホール内外で質の高い音楽に触れたり、サポーターとして交流したりする機会を生み出している。人材養成事業では、若手演奏家へのビジネスチャンス（演奏機会）の提供。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

●公演事業指標達成状況

1. 公演毎のチケット販売数

事業番号1：②③ 112枚（目標①～③720枚） 事業番号2：782枚（目標1,000枚） 事業番号3：603枚（目標1,000枚） 事業番号4：281枚（目標420枚） 事業番号5：0枚（公演中止、無観客ライブ配信実施のため）
事業番号6：485枚（目標1,410枚） 事業番号7：255枚（目標520枚）

※事業番号2は席数制限を設けたが1回目、2回目とも完売。事業番号3も席数制限を設けたが1回目は完売。

新型コロナウイルス感染症による影響（緊急事態宣言の発令、外出自粛要請、イベントの開催制限等）により、すべての公演において入場者数の目標を達成することはできなかった。

2. 事業番号5・6・7におけるU25 券売上枚数

事業番号5：0枚（公演中止、無観客ライブ配信実施のため。目標1公演あたり90枚） 事業番号6：①12枚（目標20枚）②0枚（中止のため）③6枚（目標50枚） 事業番号7：31枚（目標40枚）

3. 公演共通アンケートによる満足度：「本日の公演はいかがでしたか？」（5段階評価）に対する「大変満足」「満足」の割合が、事業6で100%（目標95%）、事業7で100%（目標95%）（無回答を除く）といずれも目標を達成した。事業5は無観客ライブ配信のため評価不能。また、事業1～4についても、全て100%（無回答を除く）。

4. チケットデスク顧客分析による購入者に対するリピーター割合：65%（目標：65%）と達成した。

これまでの実績は28年62%、29年57%、30年69%であり、コロナ禍において全体の来場者数が減少したものの、リピーターの割合にそれほど大きな変化は見られなかった。

●人材養成事業指標達成状況

1. セミナー生によるアウトリーチ実施回数：小学校で2回（中央小、京橋築地小）と目標（3回）は未達。（新型コロナウイルス感染症の影響で、アウトリーチを今年度見送った学校があったことが影響している。）

2. セミナー修了生によるアウトリーチ実施回数：4回および動画制作1回、と目標（7回）未達。（新型コロナウイルス感染症の影響で、アウトリーチを今年度見送った学校があったことが影響している。）

3. 小学生への共通アンケートによる満足度

質問「本日のコンサートはどうでしたか」に対する答え「とてもよかった」と「よかった」の割合94.8%（目標95%） 質問「コンサートを聞いて今までより音楽が好きになりましたか」に対する答え「とても好きになった」

「好きになった」の割合85.7%（目標87%） 質問「もっとコンサートに行ってみたいと思いましたか」に対する

答え「とても思った」「すこし思った」の割合84.0%（目標85%）

※間近で生の音楽を聴く形式ではなく、体育館等密にならない場所で、演奏家と生徒との距離を設けたところも多く、従来の臨場感溢れる生の音楽鑑賞とは異なったアウトリーチになったことが影響している可能性がある。

4. 外部講師による接遇研修は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。

●普及啓発事業指標達成状況

1. アウトリーチ実施回数：計22回 新型コロナウイルスの影響により目標（32回）に届かなかった。

アウトリーチ実施（小学校14回、幼稚園・保育園6回、福祉施設・医療施設2回） 計22回

2. オープンハウス 動画配信視聴数

- ・東混とうたおう！ 最大同時視聴数252人／累計視聴数1034回
- ・弦楽四重奏をきいてみよう！ 最大同時視聴数78人／累計視聴数251回
- ・コンサートのひみつ！ 累計視聴数 173回

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

●事業期間

・事業期間は4月1日から3月31日までの事業年度単位としている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響のため、多くの公演が中止・延期・実施内容の変更を余儀なくされるとともに、アウトリーチについても、複数のアウトリーチ先で実施時期の変更や実施見送りがあり、当初計画から大幅な変更となった。

●収支予算・実績

(単位：千円)

	公演事業			人材養成事業			普及啓発事業		
	予算	実績	予実差異	予算	実績	予実差異	予算	実績	予実差異
収入	23,335	7,576	-15,759	0	0	0	853	790	-63
支出	31,725	18,197	-13,528	800	590	-210	3,971	3,748	-223
収支	-8,390	-10,621	-2,231	-800	-590	210	-3,118	-2,958	160

【公演事業】

想定入場者数は、過去の同様のシリーズから概算で目標を立てていたが、目標設定時は想定できなかった新型コロナウイルス感染症の影響（外出自粛要請、イベントの開催制限等）のため、公演は実施できても収容率の制限などがあり、目標未達となった。

・事業全体の収入・支出は、「トリトン晴れた海のオーケストラ」の公演が中止となり無観客ライブ配信（無料）を実施したことの影響が大きく、その他公演の中止・延期等もあって、予算より大幅に減少した。

・「クリスマス・オーケストラ・コンサート」は販売時に客席に空席を設けるなどしたため、当初の目標販売数は下回ったが完売、「子育て支援コンサート」も収容率50%の要請で売り止めとなった。

【人材養成事業】

・アウトリーチセミナーは、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、実施回数が2回（目標3回）となり、またオープンハウスが無観客となるなどの内容変更はあったが、計画どおりの事業開催期間となった。サポーターに対する接遇研修（外部講師による）は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とせざるを得ず、支出が予算より減少した。

【普及啓発事業】

・「オープンハウス 2020」について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来場頂く形ではなく、無観客ライブ配信による「今年はおうちで！オープンハウス 2020」を実施したことにより、謝金・宣伝費等の支出が予算より減少した。

・アウトリーチについては、新型コロナウイルス感染症の影響で、6月までは実施することができず、延期などの調整をし、ほとんどは秋以降に実施できたが、最終的には当初予定していた小学校6校、高校1校、福祉施設・病院2か所が中止となった。アウトリーチ受け入れに代わって、アウトリーチ動画を撮影したDVDを制作し、DVDを視聴いただくといった新たな取り組みを行ったため、収入は予算より若干減少したものの、支出については予算並みの実績であった。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

主催事業の企画立案から実施、振り返りまでを、当団体の制作スタッフが企画毎にメインとなる演奏家と共に
行っており、多彩な事業を展開している。特に創造性が認められる主な取り組みは以下のとおり。

(1) ホール公演事業

●「子どもといっしょにクラシック」シリーズ

・13年前に現プロデューサー田中玲子の就任以来、ファミリー人口が増える地域のニーズに応える「子どもといっしょにクラシック」シリーズを拡充。11年前スタートの「ロビーでよちよちコンサート」は0歳から3歳児向けで、乳幼児の集中力に視察に訪れる関係者が一様に驚く先駆性を持ったプログラム。R2年度は春は動画配信、秋冬はよちよちしない0歳児対象で実施した。4歳以上入場可の公演は年に3回用意、中でも「子育て支援コンサート」はメインターゲットが子育て中の親であり、第1部、両親がホールでクラシックコンサートを楽しむ間、子ども達は、年齢別に分かれた4つの音楽スタジオで音楽体験をするというオリジナリティある構成で毎年好評だが、R2年度はコロナ禍で子ども達を別に預かることは断念し親子でホールで楽しむよう内容を変更した。このように年齢別シリーズを継続することで、地域の子どもたちが0歳からホールに来る流れができつつあることがチケット購入者の顧客分析からも分かる。アウトリーチセミナー修了生の若手演奏家も活躍している。

●コンサートマスター矢部達哉をリーダーとして、プロデューサーがH27年に街の象徴として立ち上げた第一生命ホール専属の「トリトン晴れた海のオーケストラ」は、聴衆のみならず音楽専門誌等でも高い評価を受けている。ベートーヴェン生誕250年となる2020年に向けては3年前からいち早く「ベートーヴェン・チクルス」を開始。R2年度は「第九」を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により、無観客ライブ配信を実施、またメンバーによるアウトリーチを、7月という早い段階で実現させた。

●H30年度から継続するピアニスト小山実稚恵による室内楽シリーズでは、中央区民カレッジと連携し、講座と鑑賞を組み合わせ、ホール周辺のクラシックファンの裾野拡大にも取り組んだ。

●H29年度開始の「室内楽ホール de オペラ」では、ホールの舞台・照明音響スタッフがアイデアを出し共同して室内楽ホールの音響、舞台を活かしたオリジナル作品を創り上げている。

(2) 人材養成事業

●ヴァイオリニスト松原勝也が講師としてプロデュースする「アウトリーチセミナー」は、先導性ある、アウトリーチに特化した演奏家のためのセミナーで、10年継続。小学生が弦楽四重奏曲を高い集中力を持って聴くことのできるプログラムを毎年新たに生み出し、修了生がその後アウトリーチで活躍するという流れができている。

(3) 普及啓発事業

●小学校アウトリーチでは、音楽教諭に学習進捗状況を確認の上、演奏家とプログラムを制作。4年～10年以上経験ある当団体スタッフが担当となり事前リハーサルに参加し、内容の向上をはかっている。R2年度はコロナ禍の中、アウトリーチ実施のためのガイドラインを策定、中央区教育委員会とも連携し、安全な運営ができるよう努めた。ウェブサイトアウトリーチの詳しい内容について写真とともにレポートを掲載し、ノウハウを提供、発信している。対外的にも、音楽大学でアウトリーチに関する講義を行うなどノウハウの提供に努めた。

●ホール開館以来毎年実施しているホール無料開放イベント「オープンハウス」について、R2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年のようにボランティアとの協力はかなわなかったが、無観客ライブ配信を実施し多くの方に視聴していただいた。このライブ配信のカメラワークは、舞台スタッフであるNHKアートが担当した。またウェブサイトには舞台スタッフが制作したホールの舞台機構を紹介する動画なども掲載した。

●安全確保のための取組としては、ホールでの定期的な防災訓練を行っている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

以下の視点において、地域の文化芸術の発展につなげることができた。

(1) 地域住民が音楽に親しむ機会の提供（R2年度は新型コロナウイルスの影響で中止になったものも含む）

●オープンハウスの開催

年に1回ホールを無料で開放する「オープンハウス」を2001年のホールオープン時から開催、グランドロビーでのイベントも含めて1000人以上の来場者に気軽に音楽を楽しんでもらっている。地域のサポーター（ボランティア）がプロジェクトサポーターとして関わり、数か月かけてスタッフと運営を準備し、当日は100名近いサポーターをまとめていくなど地域の人材育成ともなり、音楽を通じたまちづくりに寄与している。毎年7月の開催のため、R2年度はコロナ禍によりプロジェクトサポーターの選考までは実施したものの、実際の活動はできなかった。事業の継続が実芸芸術の振興につながるエピソードとしては、オープンハウスでは毎年楽器体験コーナーを開催しているが（R2年度は実施できず）、10年前のオープンハウスで行った三味線体験をきっかけに当団体が中央区との連携で行った三味線教室に参加していた地域の小学生が、三味線を習い続けて、この春東京芸術大学邦楽科に入学したという知らせがあった。

●中央区文化生涯学習課との連携企画の実施

・6年前から継続実施している中央区民カレッジは、講義、楽器体験、公演鑑賞を組み合わせたプログラムとしている。過去の講座参加をきっかけに、当団体の活動を知りサポーターに登録した方が2名いる。

●地域のボランティア（サポーター）受け入れ

毎年約70名の登録サポーターと共に、ホール事業、コミュニティ事業に関わる活動をしている。大学生、大学院生でアウトリーチを学びたいというサポーターもあり、見学や勉強会の機会を提供しているが、10年前、小学生の時に当団体のアウトリーチを実際に体験したという大学院生もいた。R2年度はサポーターの活動は3月に再開するまで実際にはできなかったが、その中でも交流会をしたり、コンサートへ招待するなどしてコミュニケーションを取り、コロナ禍での活動希望についてヒアリングを行い、R3年度以降の活動に活かすよう努めた。

(2) ステークホルダーの期待やニーズの把握と対応

●顧客アンケートの活用

・主催公演における顧客アンケートでは満足度99.4%を獲得した。
・地域顧客の来場割合は、子どもといっしょにクラシックシリーズでは平均82%であり、地域の文化芸術の発展につながっている。

・「ロビーでよちよちコンサート」のアンケートで「早い時間の開催のみでは通勤ラッシュに重なる」というご意見から、どの年齢も参加時間が選べるようにする、などより良い企画、運営に活かしている。

・第一生命保険株式会社との運営会議では、会社員を対象とした「645コンサート」についてヒアリングを行い、演奏家の選定や、在宅勤務が増える中でコンサートだけでなく有料動画配信をするなどについて意見を取り入れた。

(3) 文化芸術情報の提供・発信

・「トリトンアーツ通信」を年10回発行し、アウトリーチ先の小学校、保育園、幼稚園等に児童、園児数分配布し、保護者への告知を行った。実際に「トリトンアーツ通信」を見て子ども向けの公演やワークショップなどへ応募したという例は多い。小学校で行ったアウトリーチのレポートなども写真付きで掲載している。小学生向けの作曲家解説（連載）が好評。

・ホームページでの公演情報、アウトリーチ実施レポート等の掲載を行うとともに、Facebook、Twitter、Instagramメールマガジン等多様な媒体で活動についての広報を行っている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

●組織運営

・すべての事業活動は「事業計画」に基づいて行われ、「理事会」（年4回開催）、運営会議（隔月開催）、企画分科会（月1回開催）において、振り返りを実施し次の事業に活かしている。特に企画分科会では各公演・コミュニティ活動について、運営面・広報宣伝・アンケート分析等による振り返りを行い、次につなげている。また、外部の有識者からなる「評価委員会」では活動を第三者視点で評価・提言頂き、毎年の「評価報告書」にまとめるとともに、評価の内容、提言を事業活動にフィードバックしている。

●人事戦略

・スタッフ採用・育成：正規雇用率は80%。第一生命保険株式会社からの出向者以外は全員、プロバーの制作スタッフであり、公演事業と普及啓発事業、両方を担当することで双方の事業に相乗効果をあげながら取り組めるようにし、実績によってアソシエイト・ディレクター、ディレクターへ昇給の仕組みがある。少人数体制につき体系だった研修が難しいため、各自のスキルアップを外部講習、セミナーを活用し、経費補助を行っている。正職員の平均勤続年数は、11年9か月であり、定着率が高く団体内でスキル、経験を積める制度となっている。

・サポーター（ボランティア）制度：様々な属性の登録サポーター76名が様々な活動に参画できるメニューを用意している。例年は外部講師による接遇研修を実施。また別途公募したオープンハウスのプロジェクトサポーターが、7月本番までイベントの各コーナーの責任者として活躍する仕組みもある。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、残念ながら、サポーターに活躍してもらう機会を殆ど設けることができなかったが、サポーターとの絆を維持・強化するための取り組みとして、サポーター通信の発行による情報提供、サポーター交流会の実施等を行った。

●安定的な収益基盤と財源確保の取組：・個人会員、法人会員、寄付金、協賛金等、多様なファンドレイジングに取り組んでいる。

区分		H30	R1	R2
個人会員	会費	7,420千円	7,360千円	7,050千円
	会員数	733名	716名	682名
法人会員	会費	24,600千円	23,800千円	23,400千円
	会員数	52社	53社	55社
個人寄付金	金額	1,869千円	2,429千円	3,847千円
法人寄付・協賛金	金額	49,304千円	51,604千円	50,979千円
助成金	金額	10,560千円	9,879千円	11,655千円

・支援者には活動状況を掲載したフリーペーパー「トリトンアーツ通信」を年10回発行し、レターとともに送付している。また年間の事業報告書、評価報告書をウェブで公開することと併せ、法人会員に送付している。大口法人寄付者である第一生命保険株式会社には毎月の定例会議にて活動状況を詳細に報告している。

●劇場・音楽堂等間のネットワーク形成

・東京文化会館、サントリーホール、東京芸術劇場と4館連携「若手演奏家支援事業」として一般のお客様へ演奏会を実施するとともに、他ホール担当者と、コロナ禍での取組等について情報交換会を実施した。また当団体企画「音楽と絵本コンサート」を、板橋区文化・国際交流財団が買い取り、板橋区立文化会館小ホールで上演。

●教育機関とのネットワーク形成、キャリアパスの構築

・プロデューサーがH28年より昭和音楽大学に非常勤講師として「芸術文化と社会」前期15回授業と、R1年より慶應義塾大学アート・プロデュース講座での講義1回を担当。活動紹介のうえ、興味ある学生はサポーターとして受入れている。また毎年インターンシップの受入れも行っており、R2年度は1名を受入れた。

